

文化財 せんだい



No. 129

令和3年(2021年)3月発行
仙台市教育委員会文化財課

仙台市青葉区上杉一丁目5-12
上杉分庁舎 10階

〒980-0011 Tel:022-214-8893

仙台市文化財課

検索

祝

来館者 4万人達成!!

史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設の来館者が、

令和2年11月14日に4万人を突破しました。記念すべき4万人目の来館者は、若林区にお住まいのご家族です。平成29年7月28日に開館して3年での達成となりました。これからも多くの皆様のご来館をお待ちしています。

ちょうど同じ日に、仙台市の文化財の保護と活用を支援する「文化財サポーター」養成講座の第6回を同地で開催しました。応募多数で抽選により選ばれた10名の受講生には、史跡陸奥国分寺・尼寺跡について当課職員による解説で深く

学んでいただきました。令和3年度も養成講座を実施する予定です。詳しくは市政だより等でご案内します。



陸奥国分寺史跡地内をめぐる



ガイダンス施設内での学習

文化財

公開の日「流通の町・原町の文化財をめぐる」

令和2年11月2日(月)に、文化財公開の日「流通の町・原町の文化財をめぐる」を開催しました。江戸時代、仙台下への東の玄関口に位置した原町は、塩竈へ向かう塩竈街道、松島・石巻へ向かう石巻街道、蒲生方面への街道が通る交通の要衝にあった宿場町でした。近代以降も宮城電気鉄道(後の仙石線)や市電(昭和51年に廃止)の開通、国道45号線の敷設などにより、流通の拠点として栄えた町です。

今回はその立地を活かした産業に関わる文化財のうち、近年、国の登録有形文化財となった宮城野納豆製造所の建物群と鳥山米穀店店舗兼主屋、そして、江戸時代に道案内の役割を担った原町の道しるべ石(仙台市指定文化財)を見学しました。

宮城野納豆製造所では工場の内部を見学しながら製造工程について、鳥山米穀店ではお店の歴史について、所有者の方から解説をいただきました。午前・午後合わせて19名の参加者の方々は熱心に耳を傾けていました。



宮城野納豆製造所

昭和9年(1934)に現在地に移転しました。納豆だけでなく納豆菌も製造して販売しています。商品は最寄りの陸前原ノ町駅から全国各地へ輸送されていました。



鳥山米穀店

天保7年(1853)創業で現在も米穀商を営んでいます。明治時代には米以外にも大豆などを扱い、鉄道を使って関東地方へも品物を卸していました。

令和2年度 発掘調査速報!! part2

長町駅東遺跡(太白区あすと長町)

長町駅東遺跡は、JR長町駅の南東に位置する縄文時代から平安時代の遺跡です。これまでに古墳時代から奈良時代の竪穴住居跡が500軒以上発見されています。今年度は当時の竪穴住居跡が50軒以上見つかかり、土師器や須恵器のほか、生活の道具が多数出土しました。東側に隣接する郡山遺跡にあった古代の役所(郡山官衙)の造営・運営に関わった人々の集落と考えられます。

また、集落のすぐ西側を流れていた河川跡と縄文、弥生時代の様子を探るための調査も実施しました。その結果、河川跡からは土師器や須恵器のほか、石製の装飾品である切子玉などが出土しました。なお、縄文、弥生時代の調査では竪穴住居跡などは確認されませんでした。今から約4,300年~3,400年前の縄文時代後期の土器や石器が多数出土しました。

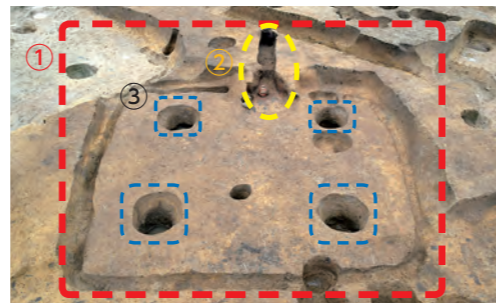


紹介する遺跡の位置(国土地理院 地理院地図に一部加工)



主な発見:
「河川跡」

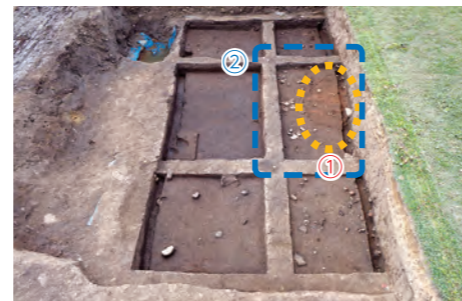
主な発見:
「竪穴住居跡」



①竪穴住居跡 ②カマドと煙道
③柱穴



出土した切子玉



①焼土(赤く焼けた跡が見られる土)



②の調査区で発見された縄文土器

山田上ノ台遺跡(太白区山田上ノ台町)

山田上ノ台遺跡は、JR長町駅から約5km西側に位置する旧石器時代から近世の遺跡です。昭和55年度の第1次調査では、縄文時代の竪穴住居跡(38軒)や、貯蔵穴や落とし穴などの土坑(約320基)、遺物包含層3か所などが発見され、集落構造全体をほぼ把握でき、縄文時代の大集落が市街地の中に良好に残る全国屈指の遺跡として評価されました。昭和56年、仙台市はその重要性から遺跡を保存・活用することを決定し、平成18年に「縄文の森広場」をオープンさせました。

今年度は、令和2年10月から約1か月間の発掘調査を行いました。その結果、縄文時代中期末と考えられる土器や石器が、多数出土しました。

また、写真①を中心に焼土の広がりが発見されました。これはさらに北側に広がっているものと考えられます。焼土の性格や分布範囲は、今後の調査で明らかになると考えられます。

シリーズ ~仙台城跡特集~ 第3回

「史跡仙台城跡整備基本計画」の策定について

このコーナーでは、市民の皆様からの関心が高い仙台城跡の調査結果等を取り上げてきましたが、今回は今年の3月に策定を目指している『史跡仙台城跡整備基本計画』について紹介します。

史跡仙台城跡整備基本計画とは?

これからの仙台市のまちづくりに役立てるため、仙台城跡が本来にもっている歴史上、学術上の価値を目に見えるかたちにし、歴史と城郭らしい趣を感じる景観と、来訪者が楽しみながら学べる環境を実現するために、どのような保存・整備・活用を行うかをまとめたものです。



修景整備のイメージ図(広瀬川対岸から)

仙台城跡整備の考え方

今回の整備基本計画では、令和3年度から令和12年度までの10年間に行う具体的な整備についてまとめています。仙台城跡の整備は、仙台城跡をお城らしく整備して市民の皆様の誇りとなる場所にするという基本的な考え方のもとで整備を進めていきます。

10年間で何をやるの?

令和3年度から令和12年度までの10年間では、以下の3つを中心に進めます。



一、調査

仙台城跡を正しく整備するために、発掘調査や史資料調査、測量調査を行って整備に必要な情報を集めます。特に大手門復元については、整備の第一歩として大手門跡周辺の地形測量や史資料調査を令和3年度から開始します。



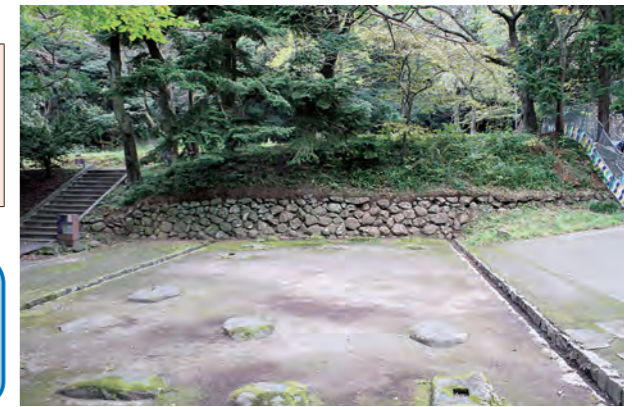
焼失前の大手門と脇櫓(仙台市博物館所蔵)

二、修景

現在、仙台城跡の地形や遺構を覆っている樹木を伐採・剪定、保全し、さらに植栽などの方法で修景します。修景とは、歴史的景観と自然が調和した空間にしていくことです。

三、巽門登城路整備

城が造られた当初の大手道とみられる巽門からの登城路は、現在は形が変わっています。発掘調査の成果に基づいて登城路跡を本来の姿に整備します。



現在の巽門跡と登城路周辺

※「史跡仙台城跡整備基本計画」につきましては、パブリックコメントで市民の皆様からいただいたご意見や委員会での議論を基に策定されます。策定後、当課窓口やホームページ(表紙上部記載)、市図書館などで閲覧可能となる予定です。

第73回文化財展「ようこそ“まいぶん”の世界へ～仙台の遺跡探検～」



令和2年11月11日から15日にかけてせんだいメディアテークにおいて第73回文化財展を開催しました。

「ようこそ“まいぶん”の世界へ～仙台の遺跡探検～」をテーマに、仙台市内の発掘調査成果から、旧石器時代に始まり、縄文時代から近世まで、それぞれの時代の“まいぶん”（埋蔵文化財）の魅力をパネル展示で紹介しました。その他、「発掘調査ってどうやってやるの?」「『いのり』の文化財」などの企画展示も行い、埋蔵文化財に詳しい方にもそうではない方にも、たくさんの方に楽しんでいただきました。

来場者の方には「歴史が好きで、武将や城など(のパネル)が展示してあって、知らない時代や遺跡を見て良かった」などの感想をいただきました。これからも来場者の方に楽しんでいただけるような展示をしていけるよう努めていきます。



第74回文化財展は東北電力グリーンプラザ とうほく文化情報コーナーで6月ごろに開催予定です!
最新の発掘調査で出土した遺物も展示予定です。
お楽しみに!!

文化財課の
**出前授業・
出前講座・
ガイド等**
ご利用ください!!

当課では、新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じた上で、学校や市民の皆様向けに出前授業や講座、ガイド、職場体験等を随時行っています。今年度の実施例としては

<出前授業>

- ・縄文土器と弥生土器
- ・江戸時代の仙台と伊達政宗
- ・のこしたいものつたえたいもの

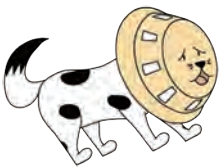
<出前講座>

- ・古代の仙台
- ・江戸時代の仙台
- ・災害の歴史

<ガイド>

- ・仙台城
- ・陸奥国分寺・尼寺跡
- ・郡山遺跡

以上のようなものが挙げられます。その他にも様々なテーマで実施していますので、まずは**お気軽にご相談**ください。(問い合わせ先は表紙上部記載)



・新型コロナウイルスの流行状況により、当課の事業、イベント等につきましては中止や延期となる可能性があります。最新の情報は当課ホームページやお電話等でご確認ください。(表紙上部記載)

ワケアップ! 仙台



めざめよ! こみ分別都市。



ワケルくん

この広報誌は雑紙としてリサイクルできます